

北見工業大学と共同でバイオ発酵液「善玉活性水」の研究を進める

企業コード：040324504 環境大善(株) (北見市)

未利用バイオマスである牛のし尿を微生物で分解したバイオ発酵液「善玉活性水」を原料とし、消臭液や土壌改良材（特殊肥料）などを製造する環境大善(株)（北見市）は、北見工業大学との共同研究によりバイオ発酵液「善玉活性水」の原理の解明を進めるとともに、自社ブランディングを推進している。

[北見工業大学と共同研究講座を開設]

当社の商品は、効果と天然由来である点を評価され利用者や利用シーンを拡大してきたが、なぜ「善玉活性水」は優れているのか、メカニズムが解明されていなかった。

「善玉活性水」の更なる応用、普及に向けた原理解明が必要と考え、2017年から北見工業大学の小西正朗教授と共同研究を実施してきた。この取り組みを更に深化・推進することを目的に、今年3月末に北見工業大学オホーツク農林水産工学連携研究推進センターの小西正朗教授を主宰とする「環境大善共同研究講座」を設置し、学内に共同研究専用の研究室を開設した。その後、社内にも研究組織「土、水、空気研究所」を設立して活動を推進している。



共同研究専用の研究室

[中小企業庁の支援事業に採択]

当社と北見工業大学の共同研究は、中小企業庁が行っている「戦略的基盤技術高度化支援事業」に採択を受けている。研究テーマは「光合成微生物増殖促進剤の純培養製造技術開発」。これまでの研究で「善玉活性水」に光合成微生物の増殖促進効果を確認してお



共同研究講座設置に係る記者会見

り、増殖促進成分の生産方法の効率化を進める。小西正朗教授は「この研究が進展すれば、廃棄物であった家畜ふん尿にさらなる付加価値を与えるだけでなく、この発酵液を活用することでバイオ産業全体の効率化やCO2削減などが達成できると考えています」と話す。当社の窪之内誠社長は、「畜産廃棄物をアップグレードリサイクルし販売していく事により、サーキュラーエコノミーを行っています。当社の持つ技術が次世代バイオ産業の発展に役立つよう研究を行っていきます」と話す。

[JAPANブランド育成支援等事業に採択]

当社は2018年からコーポレートアイデンティティの刷新を進めてきた。この度、中小企業庁が行っている「JAPANブランド育成支援等事業（特別枠）」の採択を受けた。今年7月からはオンライン番組「私のデザイン経営強くて愛されるブランドをつくる人々」の配信も行っている。今後、これらの活動をより磨き上げ、新たな挑戦にも取り組む方針である。



地球の健康を見つめる

環境大善

環境大善(株)

〒099-2103 北見市端野町三区438-7

TEL：0157-67-6788

<https://kankyo-daizen.jp/>